

質問	デュロキセチン錠 20mg「ケミファ」は簡易懸濁法での投与は可能ですか？
回答	<p>デュロキセチン錠 20mg「ケミファ」は、55℃の温湯で 5 分以内に崩壊・懸濁しましたが、8Fr.のチューブを通過せず、14Fr.チューブは通過しました。55℃の温湯を使った懸濁液の安定性（含量）では、問題は認められませんでした。さらに、電子添文から一部抜粋して記載した「14. 適用上の注意」を考慮し、「条 3」と判定されました。本剤は腸溶性コーティングを施した顆粒を含む錠剤であり、懸濁液の酸に対する安定性試験を実施していないため、経鼻チューブが腸まで挿入されているか、腸痙であれば使用可能です。詳しくは添付のデータをご覧ください。</p> <p>【電子添文の記載】（一部抜粋） 使用上の注意「14. 適用上の注意」（一部抜粋） 14.1 薬剤交付時の注意 14.1.3 腸溶性コーティングを施しているため、錠剤を砕いたり、すりつぶしたりしないで服用するよう指導すること。原薬が酸に不安定であり、胃酸で失活することがある。</p> <p>本資料の情報に関する注意：本資料には承認を受けていない品質に関する情報が含まれます。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示しているものです。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではありません。</p>
参考資料	【デュロキセチン錠 20mg「ケミファ」】 簡易懸濁法に関する資料